

平田小六 小説家。明治二十八年十一月一日秋田縣生れ、昭和五十二年五月十八日歿（九〇三七）。筆名木村精介。大正十二年弘前中學校卒。小學校教員を経て昭和四年上京、東京毎日新聞社勤務、七年雑誌『唯物論研究』編輯助手、十二年支那へ渡り京津日日新聞社社長など。この間雑誌『農村』を毎巻に小説作品を發表。

著書『囚はれた大地』（昭和九年九月二十日ナウカ社。再刊『囚われの大地』）二十四年一月二十日改造

社）、『われらの成果―新鋭傑作十

七人集』（合著、昭和九年十月二十

日（二書房）、『童兇（わらし）』

（昭和十年七月十日ナウカ社）『新

選プロレタリア文藝總集』（、『下

ルストイ人生讀本』（昭和十一年九

月二十日日本公藝社）『人生讀本叢書』（、『黎明（農民小説傑作選）』

（合著、昭和二十二年七月十五日赤

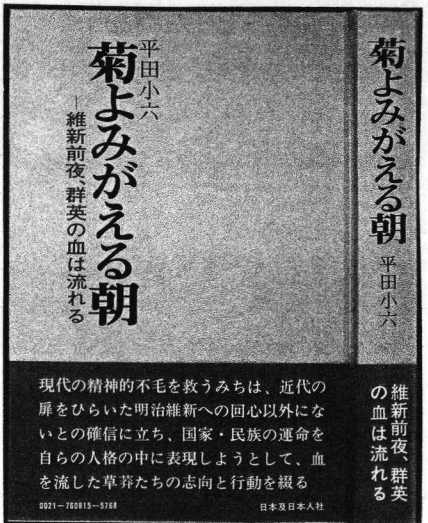
坂書店）、『平田小六短篇集』（樺

野隆一編、昭和四十七年十一月二十

日昭森社）、『菊よみがえる朝』維

新前夜、群英の血は流れる』（昭和

五十一年九月一日日本及日本人社）



等。

